



IBARAKI TOYOPET  
RACING TEAM

## GR86/BRZ Race

### 第7戦 富士スピードウェイ

平木湧也がより内容を濃くして、第7戦を15位でフィニッシュ！  
スポット参戦の阪本知洋は18年ぶりのレースで、無事完走果たす



GR86/BRZ Race 第7戦

2017年9月1～2日 富士スピードウェイ（静岡県）

▶プロフェッショナルシリーズ第7戦

晴れ 10周（35台出走）

平木 湧也

予選16番手／決勝15位

▶クラブマンシリーズ第7戦

曇り 10周（予選94台出走／Bレース44台出走）

阪本 知洋

予選2組39番手／決勝Bレース30位

▶メカニック

チーフメカニック：高橋 雄大（つくば西大橋店）

メカニック：市川 健一（竜ヶ崎出し山店）

メカニック：井坂 晃裕（土浦並木店）



GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズの第7戦が、富士スピードウェイで9月1～2日に開催された。普段は平木湧也選手を擁してプロフェッショナルシリーズに挑む、茨城トヨペットレーシングチームながら、今回はクラブマンシリーズにスポットで出場する、ふたりのドライバーを加えての参戦となった。

前回の十勝スピードウェイは、平木選手にとっても、チームにとっても初めて挑むサーキットであったが、今回の富士スピードウェイは今シーズンだけでもすでに一度開催されて、86/BRZ レースでも経験済。こと平木選手にとっては、併せて挑んでいるFIA-F4で昨年、優勝経験もある、得意とするサーキットのひとつでもあった。

一方、クラブマンシリーズに挑む阪本知洋選手は、今回が実に18年ぶりのレース。かつてカローラレビンやスプリンタートレノで争われていたワンメイクレース、C/SNCでのレース経験を持ち、「50歳になった記念に、久々に。体がまだ動くうちに、もう一度レースをしてみたかったです」という。一方、もうひとりの野村達也選手は、2015年からGR86/BRZ Race クラブマンシリーズにスポット参戦しており、今シーズンは第1戦もてぎ以来2戦目となる。

今回のレースは、メインレースのスーパー耐久が10時間レースということもあって、日曜日の早朝8時からのスタート。そんなこともあって、プロフェッショナルシリーズ、クラブマンシリーズともに予選は金曜日に、そして決勝レースは土曜日に行われることとなっていた。

金曜日の午前に行われた専有走行には、1組で「茨城トヨペット ドラゴン 86」をドライブする野村選手が、そして2組で「茨城トヨペット 86 レーシング」をドライブする阪本選手が分かれて走る事となった。しかし、ここで思いがけぬアクシデントが発生。2分13秒002を記して46番手につけた野村選手だったが、セッション半ばでクラッシュを喫し、ダメージを負った車両は修復不能となったため、予選を前にしてリタイアせざるを得なくなったのだ。

「残念ですが、仕方ありません。もう少し練習重ねた方が良かったかな、と思いましたね。なかなか時間が取れなくて、去年の最後に富士を走ってから、練習ができないままでしたので。100Rのスピードに乗っているところで飛び出してしまいました。」と野村選手。一方、阪本選手は2分11秒847をマークして、30番手につけていた。

続いて行われたプロフェッショナルシリーズの専有走行で、「茨城トヨペット 86」をドライブする平木選手もまたトラブルに見舞われていた。水曜日からの走行開始で、準備万端……のはずが、木曜日にはブレーキに、そしてこの専有走行では制御系のトラブルを抱えてしまう。メカニックによる応急措置が行われ、なんとか走行は可能だったものの、「ストレートでまわりより10km/hぐらい伸びません」と平木選手。そのため、トップから2秒落ちとなる2分7秒623を出すに留まり、27番手に沈んでしまっていた。



午後からは予選が行われ、クラブマン2組で挑んだ阪本選手は2分13秒台からのスタートとなり、その後は12秒台をコンスタントに記していく。しかし、12秒093を自己ベストに、そこから先の壁がなかなか超えられず……。そのため、2組の39番手となり、Bレース決勝には32番手、16列目から挑むことが決定した。

「ちょっとツッコミが足りなかったですね、抑えすぎてしまいました。アタック3周目に後ろから来たクルマに譲ったら、踏めなくなってしまって。そのあと気合を入れすぎて、今度はオーバースピード。明らかに練習不足。明日の朝、早くなってしまったので、みなさんにご迷惑かけてしまいました」と阪本選手は反省することしきり。

続いて行われたプロフェッショナルシリーズの予選では、計測開始とともに平木選手はコースイン。さっそくアタックを開始すると、その時点でのセクター1、セクター2ではベストタイムを記録するなど、好調そのもの。練習のタイムをはるかに上回ることが、大いに期待された。しかし、セクター3もそつなく決めたはずが、最後の関門、パナソニック最終コーナーで痛恨のミスをしてしまう。その結果、2分5秒803に甘んじるも、モニターに記された時のポジションは7番手。しかもトップのコンマ8秒落ちだ。決勝での負担を考慮し、これで早々にピットへ戻って来た平木選手であったが、後半にアタ



ックを行なったドライバーも多く、タイムを刻んで来た者もいて……。

その結果、平木選手は 16 番手となり、決勝で「茨城トヨペット 86」を 8 列目からスタートさせることが決定した。まわりを見渡せば、いずれも歴戦のドライバーばかり。胸を借りるつもりで、どこまで順位を上げてくれるのか期待された。

「今回はトップ 10 を目指して予選に挑みましたが、今日の練習でやりたいことがあったのに、ちょっとトラブルが出てしまって、それができないまま予選を迎えてしまったことで、悔いは残っているのですが……。でも、(ポールポジションを獲得した) 吉田 (広樹) 選手の後ろで走ったのですが、セクター 2 まではコンマ 2 秒マイナスだったそうです。でも、セクター 3 をミスしてしまって、最終コーナーだけなのですが、それだけでかなりロスしてしまいました。それまではうまく着いていけたので、ちょっと残念だったのですが、今シーズンで一番のアタックができたと思いますし、クルマのバランスも一番。レースタイムも良さそうなので、明日の決勝は楽しみです」と平木選手。

明けて土曜日の早朝 8 時から、早くもクラブマンシリーズ B レースは決勝のスタート進行を迎えることとなった。早朝まで降った雨のため、路面には水が残っていたが、「濡れていますので、慎重に行きます」と阪本選手は、それほど戸惑ってはいない様子だ。スタート直後のコココーラコーナーでは、目の前でコースアウトする車両が相次いだものの、阪本選手は冷静に対処。3 ポジションダウンとなるも、2 周目には 33 番手に上がり、さらに路面状態の回復と合わせてタイムも確実にアップしていく。3 周目からは前後の車両とバトルを繰り広げるようになり、9 周目には 2 台を抜いて 30 番手に。それ以上の上昇はならなかったものの、スタート時よりもふたつポジションを上げたことになる。レース後の阪本選手の表情には、明らかに達成感があつた。



## 阪本知洋選手のコメント

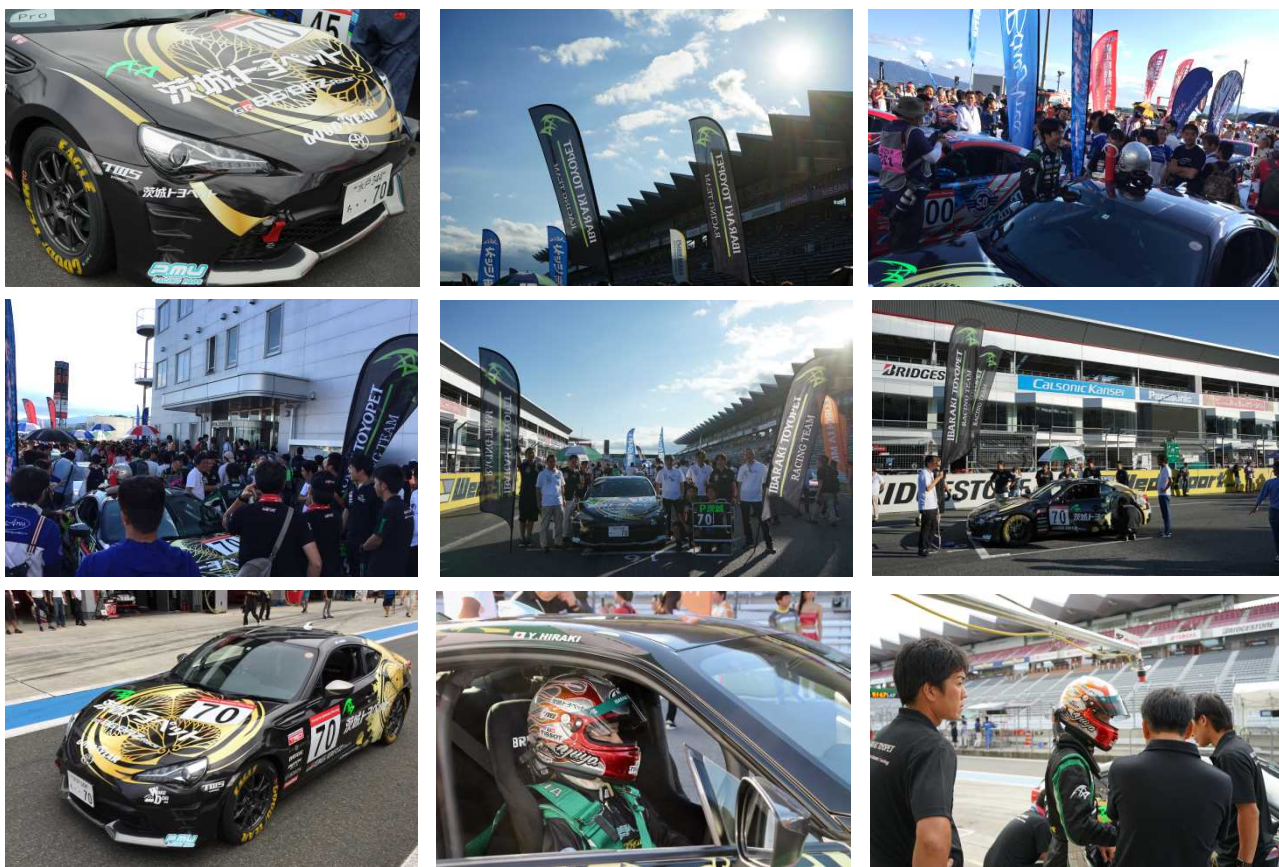


「楽しかったです。無理せず 1 周、2 周目までは慎重に行って、前の車が相当スピンしていましたからね。前と後ろを見ながら、隙間を縫って走っていました。3 周目からは連なった状態で、2、3 台でバトルとなりました。奥の方は乾いてきたのでセクター 3 のあたりで詰めて、でも 100R だけはうまくいかないんですよ。それでまた詰められるという感じでした。でも、とても楽しいレースで、久々に満足しました。今後も仕事の合間というか、状況を確認しながらもし機会があれば、またやらせていただきたいと思います」

続いてはプロフェッショナルシリーズに挑む平木選手の番。その頃には強い日差しが、路面を完全にドライコンディションに戻っていた。「茨城トヨペット 86」をドライブする平木選手は無難なスタートを切り、オープニングラップのうちにめまぐるしく順位を変えるも、1周回ってストレートに戻ってくると、予選と同じ16番手に。しかも前後とも約1秒空いた単独状態となっていた。後方からのプレッシャーを感じずに済むのはいいが、前に近づけないのはペースを思うように上げられない証拠。平木選手のもどかしい思いが、明らかに伝わってくる。

しかし、厳しい状況はまわりも一緒だった。むしろ中盤に入ると、それまで2分8秒台だったラップタイムが7秒台へと上昇。と同時に、前を行く大西隆生選手との間隔が一気に詰まり、やがてテール・トゥ・ノーズ状態になっていく。大西選手はワンメイクレースのスペシャリスト、なかなか隙を見せてくれなかったものの、最終ラップにチャンスが訪れる。スリップストリームから抜け出し、1コーナーでオーバーテイクに成功。その結果、ひとつだけとはいえ、予選より順位を上げて15位でフィニッシュ、少なからぬ収穫を得ることとなった。

次回のレースは10月1日に、スポーツランドSUGOで開催される。平木選手にとって、86/BRZレースでは初めて走るサーキットではあるものの、FIA-F4では何度も走った経験を持つ。残す戦いも少なくなってきたが、着実にレースごと成長を遂げている平木選手。そろそろ入賞を果たしてほしいものだ。



### 平木湧也選手のコメント



「1周目は予選と同じ順位で戻って来ましたが、実はシフトミスをしてスタート直後に3台に抜かれ、ダンロップコーナーでシフトミスして、また何台かに抜かれ……という展開で。そこから何台か抜かして来て、戻って来たという感じです。どうにもペースがあがらず厳しいレースにはなりましたが、そんな状況の中でもクルマの状態は良くなって来ましたし、86の走らせ方がちょっとずつ分かってきたような気がしています。大西選手を最後、抜けたあたりは僕自身も『頑張った』と思います！ただ、このあたりの順位で満足してはいけませんよ。

予選からももう少し上の順位につけて、レベルの高い人ともっと戦えるようにしたいです」



## チーム監督のコメント ～石川 一郎（営業支援部）～



GR86/BRZ Race 第7戦 プロフェッショナルシリーズ（平木選手）予選 16 番手／決勝 15 位、クラブマンシリーズ（阪本選手）予選 2 組 39 番手／決勝 B レース 30 位、（野村選手）レーシングアクシデント／リタイアでした。ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回はプロフェッショナルシリーズ 1 台、クラブマンシリーズ 2 台のエントリーとなり、初日から大変忙しいスケジュールとなりましたが、チームスタッフ全員で段取り良く作業をこなし、和やかな雰囲気の中でレースを楽しむことができました。また、レースウィーク中、レーシングアクシデントや、ブレーキ系、制御系のトラブルを抱えてしまいましたが、メカニック 3 人の迅速な対応でトラブルを解消。とても心強かったです。次戦は、スポーツランド SUGO で第 8 戦が開催されます。今後ともご声援、よろしくお願いいたします。

## チーフメカニックのコメント ～高橋 雄大（つくば西大橋店）～



昨シーズン 1 年メカとして帯同させて頂きましたが、今シーズンは体制が大幅に変わり、毎戦新たな仲間メカと共に戦える心強さと共感し合える喜びを昨シーズンよりかなり噛みしめることが出来ました。プロクラス出場によって後期 86 の難しさやレギュレーションの違いを感じながら色々なことを新たに学びました。今後当社内や周りを取り巻くモータースポーツファン層の拡大、その先に必ずある当社のファン作りに大いに貢献出来るよう、茨城トヨペットレーシングチームを支え応援して行きたいと思っております。ありがとうございました。

## メカニックのコメント ～市川 健一（竜ヶ崎出し山店）～



今回、レースメカニックとして参加させていただくにあたり、店舗スタッフの皆様にご協力いただきありがとうございました。私自身、モータースポーツに興味がありここまで身近関わることがとてもいい経験になりました。ワンメイクレースのシビアさ、難しさ、楽しさなど、ぜひ皆様に体験していただきたいと感じました。もし、参加を迷っている方がいらっしゃいましたら是非参加をしてみてください。これからも IBARAKI TOYOPET RACING TEAM を応援お願い致します。

## メカニックのコメント ～井坂 晃裕（土浦並木店）～



今回初めて研修に参加させて頂きました。私個人 86 に乗っているのですが、少しでも IBARAKI TOYOPET RACING TEAM のお役にたてればと思い参加しました。驚いたのは、足まわりセッティングとタイヤ空気圧の管理です。特にタイヤ空気圧は、小雨がパラついたり、朝昼夕の気温差が激しいなどタイヤマネージメントには難しい天気でした。決勝レース直前まで最適な空気圧を探りました。普段の仕事ではタイヤ空気圧ひとつにここまで時間をかけません。これも性能差の少ないワンメイクレースならではの難しさだと思いました。応援してくれた皆さま本当にありがとうございました。これからも IBARAKI TOYOPET RACING TEAM の応援よろしくお願いいたします。